

B型事業所の「笑わらのお家」に 訪問し、障がい者雇用について 勉強させていただきました！

B型事業所とは一般企業で働くことが難しい
障がい者の方々に仕事を提供する施設です。

笑わらのお家では、現在20名ほどの障がい者の方々が一つ一つ丁寧に作業をしていました。今回は管理者の萩永さんに障がい者就労の「現状」について沢山お聞きしました。

障がい者雇用の世界

障がい者の方が行う作業は、物を箱に入れるような簡単な作業ですが、数千個完成させて0.？円の世界でした。笑わらのお家さんでは、ちゃんとした給料を渡したい思いから、お菓子を販売したり、人づてに紹介してもらおうことが多いそうです。もらい仕事は安くなりやすいため仕事を自分たちで開発し従業員の皆さんでコミュニケーションをとりながら考えているようです。周りとは違う環境でも新しいことに挑戦してより良いものを探求されているように見え、楽では無くても先がある世界だなと感じました。



事業所にできる建物には基準があり、大家さんからNGがある場合もあるそうです。情報交換をするための事業所同士のコミュニティーは、参加者が少ない傾向にあるそうです。障がい者の中には天気予報士の資格を持っている方もいて、生活面に苦手意識がある人にも意外な個性があることも教えてもらいました。

まだまだ、障がい者の方々に対する理解や、知識、協力が足りていないことを改めて感じました。また、それぞれの得意分野でそれぞれが安定して働ける社会制度を考える必要があると考えました。SDGsの達成目標年である2030年までに改善されることを願い、私たち自身もアクションを起こしていきたいと考えます。

文化祭で中古本を集めます!!

私たちはジョブボンというプロジェクトに参加し、学校に古本回収ボックスを設置することにしました。

ジョブボンとはJOB（仕事）＋本。SDGsの目標達成を目指して、本のリユースで障がい者就労支援を行う活動です。役目を終えた本を回収し、障がい者就労施設で再生&ネット通販することで、再び必要な方のお手元に届きます。

その販売代金は、施設を利用している障がい者の方々の工賃（給料）の一部になります。ご協力をお願いします！

